

NPO 法人 野生生物調査協会 第 17 回シンポジウム

■テーマ： 技術交流会 2022～生物多様性保全を目指す技術・取り組み事例～

■日 時： 2022 年 12 月 2 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

■場 所： Web 開催（Zoom ミーティング）

■主 催： NPO 法人 野生生物調査協会

■プログラム：

13:30 シンポジウムの注意事項

13:35 開会／開会挨拶

13:40 協会活動紹介

13:50～16:15 講演（プログラム順序は変更する場合があります）

「環境調査において DNA 分析でできること」（株式会社 エコリス 小池花苗）

「宇都宮市鶴田沼緑地一人々により守られる中間湿原」（株式会社 緑生研究所 井本郁子）

「日本のヒアリ対策」（株式会社 地域環境計画 伊藤元）

～ 休憩 5 分程度 ～

「地下性昆虫の多様性と調査方法」（株式会社 環境指標生物 菅谷和希）

「長野県内におけるイヌワシの保全対策事例」

（株式会社 環境アセスメントセンター 水上貴博）

16:15～16:25 閉会／閉会挨拶

16:30 閉場

■ 申し込み方法 ■

必要事項を記入の上、12 月 1 日（水）までに、各社教育研修委員、もしくは、下記宛先までお申し込み下さい。

・宛先 hase@npo-wildlife.com

NPO 法人 野生生物調査協会 担当：長谷(はせ)・庄司(しょうじ)

・記入事項：氏名、所属、連絡先（メールアドレス：資料送信のため必須）

表題「第 17 回シンポジウム 参加」

■懇親会：

新型コロナ感染拡大防止の観点から、懇親会は実施いたしません。

シンポジウムプログラムの概要

「環境調査においてDNA分析でできること」(株式会社 エコリス 小池花苗)

形態では判別しにくいサンプル等について、DNA解析による同定法が活用されています。今回は環境調査への利用例と注意点、今後の展望について紹介します。

「宇都宮市鶴田沼緑地—人々により守られる中間湿原—」

(株式会社 緑生研究所 井本郁子)

鶴田沼緑地は、宇都宮市から緑地の都市公園の指定(2000年)を受け、保全計画と地域住民の様々なボランティア活動による管理がすすめられてきた。その後20年が経過した現状を紹介する。

「日本のヒアリ対策」(株式会社 地域環境計画 伊藤元)

ヒアリは日本に定着したら甚大な被害をもたらすため、定着させてはいけないアリである。しかし、国際的な物流が盛んになりはしても衰えることはないため、侵入のリスクは常にある。そのような状況下、日本で行われている対策を紹介する。

「地下性昆虫の多様性と調査方法」(株式会社 環境指標生物 菅谷和希)

昆虫は地球上でもっとも多様な生物群であり、地中深くの特殊環境にも様々なグループが進出している。本発表では、環境調査で取り上げられることが少ない地下性昆虫について注目し、その多様性と調査方法を紹介する。

「長野県内におけるイヌワシの保全対策事例」

(株式会社 環境アセスメントセンター 水上貴博)

長野県におけるイヌワシの危機的現状とそれをもたらす要因について整理し、保全対策に関する取り組み体制や具体的な事例及び今後の展開について紹介する。